



教育を通じて難民の新しい道を拓く

パスウェイズ・ジャパン

PATHWAYS JAPAN



2024^{年度} 年次報告書

2024.04 - 2025.03

※一般財団法人として活動した2024年4月1日 - 9月30日の期間を含めてご報告しています。

誰もが自分の力で 未来を切り拓ける世界

Mission

受け入れ

世界各地で難民の状況となった人々を受け入れ、主体的に日本社会の一員となることができるようサポートする。

教育支援

市民社会の多様なパートナーとの協力により、難民の状況となった人々に、日本で高等・専門教育を受ける機会を作り、提供する。

社会づくり

難民の経験を持つ人々を、広く社会へ受け入れる環境・仕組みを、日本やアジアで創りだしていく。

代表メッセージ



パスウェイズ・ジャパン

代表理事 折居 徳正

2024 年末、世界全体で故郷を追われて難民となる人々の数は、ついに日本の人口に匹敵する1億 2300 万人に達しました。うち約 40% は 18 歳未満の子どもです。各国政府による受け入

れ枠が減り、国際的な協力が求められる中、機会さえあれば自ら努力して道を切り拓ける若者達のために、教育と就労、そして受け入れの機会を提供する必要はますます高まっています。

2024 年度、パスウェイズ・ジャパンでは渡邊利三国際奨学金により 12 名の若者の大学教育・研究を支え、新たに 2025 年度奨学生として 21 名を選考しました。また受け入れ・自立支援事業では、3 か国から 22 名の受け入れを実現し、2017 年度からの受け入れ総数は 205 名に達しました。

ここまで活動を継続、そして拡大できたのは、支えてくださる寄付者、支援者、パートナーの皆様のご協力に加えて、学生・卒業生自身による、学業とキャリア形成の実績に拠るところが大きいと考えています。その意味で、パスウェイズ・ジャパンが用意してきた小道（＝パスウェイズ）は、難民の背景を持つ若者達自身が切り拓いてきた道筋であるといえます。この道筋をさらに広く、多くの若者が安心して歩ける小道とできるよう、今後も皆様のご理解とご協力を頂けましたら幸いです。

パスウェイズ・ジャパンの取り組む課題

— 増え続ける世界の難民の数 —



故郷を追われた人の数
1 億 2,320 万人
(2024 年末時点)

73% が近隣諸国に避難

難民の状況に置かれた若者たちは、法的な地位も日々の生活も不安定になり、将来への道筋を突然絶たれ、先が見えない状況に置かれます。学び、成長し、働くという希望を失います。

— 新たな解決策 —

教育や難民を通じた受け入れ（パスウェイズ）

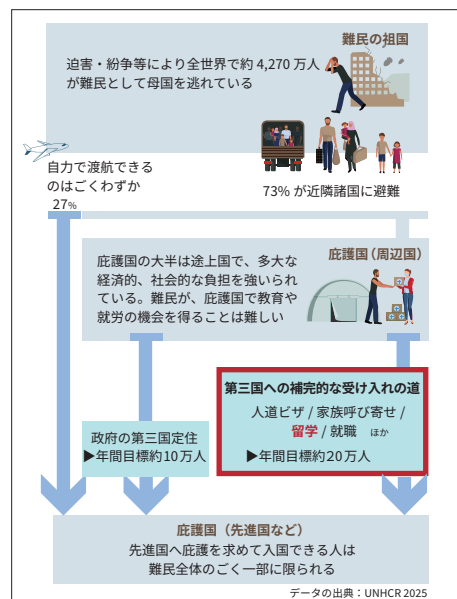
政府ではなく民間主導で受け入れを広げる動きで、カナダでは 1980 年代からスタートしました。2018 年に国連総会で採択された「難民に関するグローバル・コンパクト」以降、政府によるプログラムを補完するプログラムとして推奨されています。2023 年に開催された「グローバル難民フォーラム」では今後 5 年間で、年間 20 万人の難民を教育と就労を通じて受け入れることが目標として掲げられました。教

育や就労を通じた受け入れは、難民・避難民に生活再建の機会を提供するだけでなく、難民・避難民が社会の一員となって働くことで、受け入れ社会にとっても新たな人財を得る機会となり、難民・避難民と受け入れ社会の双方に解決策を創出します。

アメリカを始め、従来一定の難民を受け入れて来た国々の政策変更により、各国政府による難民受け入れの道筋は、昨年までと比べて非常に狭まっています。しかし、知識や技能をもった難民・避難民が、留学や就労を通じて第三国に移動、貢献していくパスウェイズという仕組みは、各国へ着実に広がりを見せています。



PJ の活動の位置付け



加えて、難民の背景をもつ方々の高等教育への進学率は 7% と低く、国際社会ではグローバル難民フォーラムにて、「2030 年までに難民の高等教育進学率を 15%」に上げることを目標に掲げ、各国で取り組みが進められています。

高い志を持った難民・避難民の学生の高等教育への進学を支援

－ 高等教育支援事業 －

奨学生 **21** 名

難民の背景を持つ方々の高等教育進学率は7%にとどまり、国際社会では2030年までに15%への引き上げが目標とされています。「渡邊利三国際奨学金」は、こうした現状を変えるため、寄付者・渡邊利三氏の強い思いにより設立されました。これまで日本で奨学金応募の機会が限られていた期間限定の在留資格を持つ人々も対象にし、学費と生活費を支援する返済不要のフルスカラーシップです。短大から大学院まで幅広い進学先に対応し、難民の背景を持つ若者が専門分野を問わず学ぶ機会を提供します。2025年度からは政府の「補完的保護」導入を受けて、定住者の在留資格を持つ方の応募も可能とし、多様な背景の応募者が集まりました。本年度は61名の応募があり、選考の結果、シリア、アフガニスタン、ミャンマー、トルコ（クルド）、ウクライナ、カメルーン出身の21名が採用され、うち11名が女性でした。パスウェイズ・ジャパンは今後も、彼らの学びと成長を支えていきます。



◆ 奨学生の詳細は [こちら](#)

～奨学生の声～

Mさん(アフガニスタン出身、2025年3月に経営学部(会計学)を卒業)



パスウェイズ・ジャパンとの出会いがあったからこそ、大学を卒業することができました。ご支援がなければ学ぶ機会を得ることはできず、今の自分はなかったと思います。大学では会計学を専攻し、数字を通して社会や企業を深く理解する力を養いました。現在は証券会社で、企業の資金調達や経営支援に携わる仕事にやりがいを感じながら働いています。これからも経験を積み重ね、支えてくださった皆さまへの感謝の気持ちを忘れず、社会に貢献できる人材を目指して努力していきます。

ハンさん (ミャンマー出身、大学院修士課程(理工学))



ミャンマーでは2021年2月に軍事クーデターが発生しました。私は軍に対する市民不服従運動(CDM)に参加しました。そして、空爆により家を離れて避難している人々に食料や医薬品を寄付しました。一方で、これまでの交換留学や研修を通じて、日本のいくつかの大学とも交流がありました。そこで教授たちに連絡を取ったところ、推薦とサポートを受けて日本の大学院に入学することができました。

大学院では、理工学を専攻し、半導体に関わる研究として、光波マイクロホンを用いてプラズマから発生する衝撃波の測定に挑戦しています。1年生の時に2つの国際会議に参加しました。渡邊利三国際奨学金のおかげで、勉強も研究も頑張ることができました。日本での就職を目指して就活を行った結果、京都の半導体企業から内定をもらうことができました。残りの在学期間では、卒業論文を書き、実験もしっかりやろうと思っています。



◆ 他の奨学生のスピーチは [こちら](#)

日本で教育を通じた難民・避難民の受け入れと自立支援 – 受け入れ事業 –

国外から日本への道筋（パスウェイ）、そして難民となる経験を経た若者たちの未来への道筋を作ります。

日本語学校や大学と連携して受け入れ、日本での進学・就職に必要な日本語力を習得するための教育を提供

在学中からアルバイト等で自活しながら日本での就労経験を積めるよう支援し、進学・就職までキャリア支援を行い、自立につなげる

様々な困難を乗り越え学び、多様な経験・スキルを持った難民・避難民の若者は、日本社会にとっても新たな「人財」となり、社会に貢献



来日前から進学・就職まで、受け入れた学生を自立に導くモデル構築

母国での様々な困難を乗り越えて日本にきた若者が、日本で自立できるよう、来日前の準備から、生活の立ち上げ、アルバイト探し、進学・就職への支援と一貫した支援をしています。2024年度からは、進学・就職に向けたサポートを拡充させ、個々の学生が日本で目指すキャリアを実現させる仕組みを構築しています。



– 来日前オリエンテーション –

オンラインでの日本語教育や日本での生活立ち上げに向けた情報を提供



– 来日後オリエンテーション –

先輩学生も講師を務め、アルバイト探しや家計管理、時間の使い方、日本でのコミュニケーションのポイントなど日本の生活の立ち上げに向け豊富な情報を提供する。支援団体とのネットワークも構築



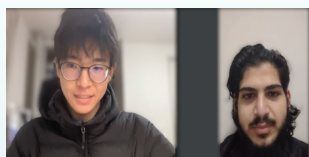
– 定期面談 –

個々の学生の状況を理解しながら、キャリア実現に向けた行動をサポート



– 就活支援 –

就職説明会を開催し日本の就活について早期に情報提供すると共に、自己分析の準備の機会を提供。その後、就活メンターシップや就活セミナーへの参加を通じて、目指すキャリアを明確にし、実現を目指す



– 進学支援 –

大学学部進学に必要となる「日本留学試験」(EJU)の受験準備を支援するための「PJチューター制度」を開始。大学生・社会人のボランティアと、サポートを必要とする受験生を一对一でマッチングして、オンラインで学習支援を行う

進学・就職し、日本で自立した生活を送り、社会に貢献する存在に

↑ ↑ ↑ ↑ ↑
ネットワーク構築（リユニオン・デイ）：様々な学生、支援する日本社会の方々とつながり、悩みを共有するとともに、進路の実現に向けてサポート

日本で広がる教育パスウェイ

(2025年4月時点)

受け入れ人数

応募者は毎年1,000人を超え、日本での教育を望むより多くの人に機会を提供できるよう受け入れを広げています

2024年度 17名 2025年度 22名 これまでの合計 205名
(帯同家族2名含む)

卒業生：113名

すでに約4割が就職等をし、社会で貢献する人財に育っています。今後、進学した学生も就職をし、さらに日本社会で活躍していきます。

就職 / フリーランス 42名

就活中 13名
大学院(修士・博士) 10名
大学 13名
大学非正規課程 3名

専門学校 8名
進学準備中 3名
その他
(第3国に移住・本国帰国等) 21名



日本社会での広がり

難民・避難民の学生を受け入れることで、学びの場が多様化され、共に学ぶ他の学生にとっても多様な文化・価値観に触れる機会になります。難民・避難民の学生は、様々な困難を乗り越え希望を失わない強い意志を持ち、多様な価値観・スキルを持った人財であり、人手不足に直面している企業にとっても、新たな人財との出会いの機会になります。

～受け入れ教育機関～



22校
日本語学校

2校
専門学校

18校
受け入れ大学数

～就活支援への参加企業～



12社

日本に住む難民を背景を持つ方々の就労に向けて - 就労・自立支援 -

アフガニスタン退避者向け日本語講座 **30** 名

就活支援への参加者 **44** 名

シリア、アフガニスタン、ウクライナ等、日本で暮らす難民・避難民の方々が、日本での生活や就労に必要な力を高めるため、日本語教育や就労支援を実施しました。日本語学習の機会が限られているアフガニスタン出身者に対しては「しごとのための日本語講座（初級）」と「日本語能力試験 N3 対策講座」をオンラインで提供しました。書類選考を経て、初級講座に 6 名、N3 対策講座には延べ 24 名が参加し、経験豊富な教師による授業を受けました。また、就職活動を行う難民・避難民の若者に対しては、7～9 月に就活メンターシップを実施し、書類選考を経て選ばれた 20 名が、プロボノのビジネスパーソンからキャリア相談や履歴書・面接に関する助言を受けました。さらに、10 月には新卒採用を目指す難民等を対象に、ビジネス日本語を学ぶ就活日本語講座

と、13 の企業・団体と交流できる就活セミナーを実施しました。37 名が採用され、最終的に 24 名が参加し、自己分析を踏まえた自己紹介や企業理解を深める機会を得ました。今後も日本語教育とキャリア支援の両面から、日本に住む難民・避難民の自立を後押しします。



就活セミナーの様子

企業でのインターンシップ事例： 株式会社ハタノシステム

難民・避難民の就労に関して理解を深めていただくことを目的に実施した「企業交流会」をきっかけに今回の長期インターンシップが実現しました。大学で国際経営を専攻していたウクライナ出身のディーさんが選ばれ、管理部で人事、広報、SNS 運用など幅広い業務を経験。ディーさんは「日本の職場文化や報連相の大切さを学び、多様性を尊重する職場で安心して意見を伝えられたことが、成長を後押ししてくれました」と語っています。担当の波多野様は「企業交流会で学生の皆さんの意欲に驚き、今回の受入を決めました。ディーさんは想像以上の活躍ぶり、ビジネススキルはもちろん、日本語の細かなニュアンスも理解していました。社内説明会を担当いただくなど、今後の外国人採用推進に向け大きく前進したものと感じています」と話しています。



◆活動レポートの詳細は[こちら](#)



「教育パスウェイズ(教育を通じた受け入れ)」の国内外で推進 - 普及・啓発事業 -

イベントへの参加者 **120** 名

講演回数 **9** 回

教育パスウェイズ・グローバルタスクフォース (GTF) の運営メンバーとして、6 月に米国ワシントン D.C. で開催された第 3 回「実践者コミュニティの会合」の運営に携わり、各国政府や教育機関、NGO 関係者約 60 名に対し、日本の取り組みを紹介し、意見交換を行いました。また、11 月には在日カナダ大使館や日本国際基督教大学財団と共催

で「日本への技能に基づくパスウェイズ（教育・就労）に関するシンポジウム」を実施し、約 60 名が参加。代表理事と受け入れ学生が、日本の事例や実体験を共有しました。さらに、難民背景の学生の受け入れを進める大学と構成する日本教育パスウェイズ・ネットワーク (JEPN) の一員として、隔月の大学教職員会合や学生会合、リユニオン・デイの開催を行い、情報交換やネットワークづくりを支援しました。加えて、在留資格や生活、就職に関する情報提供や学生からの相談対応も継続して行いました。

加盟ネットワーク

- ・ Global Task Force on Third Country Education Pathways
- ・ なんみんフォーラム (FRJ)
- ・ J-FUN (日本 UNHCR-NGO 評議会)
- ・ アフガニスタン退避者受け入れネットワーク (AFA)
- ・ 日本教育パスウェイズ・ネットワーク (JEPN)
- ・ 公益法人 NGO 連絡会



スイス・ジュネーブで行われた UNHCR 年次会合での発表の様子



在日カナダ大使館や日本国際基督教大学財団と共催で行なったシンポジウムの様子

～2025 年 3 月に来日した学生～



アルジョンディさん (シリア出身)

自分の将来を思い描いたとき、母国で実現するのは難しいと感じていました。テクノロジー分野が十分に発展しておらず、自分の力を本当に発揮するには、スキルを高め、視野を広げられる経験が必要だと思い、最先端の技術と高く評価される教育で知られる日本を目指しました。日本に降り立った瞬間、夢に向かって前進していることを実感しました。生活に大きな変化はありませんが、日々課題に向き合っています。学校での生活はとても充実しており、日本語が日ごとに確実に伸びているのを感じます。データ分析とITの勉強は個人的に続け、来年の大学出願に向け準備中です。アルバイトでは日本語やビジネス文化を実践的に学んでいます。日本で得た知識と異文化理解を活かし、デジタル分野に貢献したいです。



アミーナさん (アフガニスタン出身)

日本に来て3ヶ月が経ちましたが、これまでの経験は人生を変えるほどのものでした。タリバン政権下で味わった沈黙と束縛から解放され、学び、話し、成長し、奪われた未来を取り戻す機会を得た今、自分がどれほど成長できたかを毎日実感しています。日本語を学び、人と交流し、友達を作り、自分の意見を述べ、アルバイトをし、3年間失っていた学校に戻ることができました。新しい生活への適応は簡単ではなく、学校とアルバイトの両立や環境の変化に苦労しましたが、今は生活リズムも整い、より生産的な毎日を送れています。困難もありますが、未来を思い描くと、楽しく思い出深い時間がたくさん待っていると感じます。私が最も必要としていた時に、新しい生活を始める機会を与えてくださった方々に、心から感謝します。困難に直面した時は、私を日本へと導いてくれた夢を胸に、前進していきます。



マルゴさん (ウクライナ出身)

戦争前、私はキーウ大学で1年間日本語を学んでいました。子どもの頃からアニメを見て、日本語や日本文化に興味を持つようになったからです。ウクライナで戦争が始まり、常に心配がつきまとい、普通の学生のように勉強することができなくなりました。それでも私は学びたくて、以前よりもっと勉強し、日本への留学のチャンスをいただき、半年間日本で学ぶことができました。日本人の優しさや新しい学びがあり、本当に素晴らしい時間でした。この経験により、日本に戻ることを決意しました。今は日本語を専攻し、言語を通じて人と人をつなぐ仕事、特にウクライナと日本の架け橋になりたいと思っています。日本で夢を追い続けられるのは、多くの方々の支えのおかげです。今は学校の勉強とアルバイトを両立し、大学進学に向けて準備を進めています。

◆ 新生生のメッセージの全文は
こちらをご覧ください



～2025 年 4 月に進学・就職した卒業生～



カジムさん (シリア出身)

日本語が話せず最初はとても苦労しましたが、パスウェイ・ジャパンや日本語学校の先生方、支援者の皆様のおかげで、少しずつ生活を築き、日本語を学び、アルバイトや就職活動にも取り組んでいきました。シリアを離れ、トルコで建築を学んだ後、日本の建築に魅力を感じて来日し、日本語学校では勉強とアルバイトの両立に苦労しましたが、良い経験になったと思っています。今は建築事務所で働き、日本の職場の雰囲気にも少しずつ慣れてきました。まだまだ勉強中ですが、一生懸命頑張っています。将来は建築士の資格を取り、自分の事務所を立ち上げて、仕事の幅を広げていきたいです。これまで支えてくれたすべての方に感謝し、今後もこのプログラムが困難な状況にある人を支え続けてほしいと願っています。



フロハールさん (アフガニスタン出身)

2021年、アフガニスタンの政治状況が変わり、女性や女児は高等教育や就労の権利を奪われました。私は大学の最終学期で、卒業を目前に夢を失い、自分の人生が終わったと感じました。それでもあきらめず、海外で学ぶ道を探し、パスウェイ・ジャパンの支援で日本に来ることができました。この2年間、日本で勉強と生活を通じて、日本語力と生活のスキルを身につけ、日本の大学に進学することができたことに心から感謝しています。今年4月からは大学の別科で学び、大学入試に向けて準備中です。日本での学びは大変ですが、やりがいのある貴重な経験です。母国の女性たちをより良く助けられるよう、これからも努力を続けます。どんな場所からでも前に進めると、私の経験が誰かの励みになればうれしいです。

ヤナさん (ウクライナ出身)

侵攻が始まった時、私は卒論を書いていたが、爆撃が続き、勉強どころか日常生活さえ困難でした。修士号を目指し、日本語の知識を活かし、プログラムを見つけてすぐ応募し、日本に来ました。最初は話し相手やつながりを感じられる人もおらず孤独で憂鬱でしたが、ウクライナ人コミュニティやPJの学生たちと交流することで乗り越えました。外国人女性の会パルヨンの無料カウンセリングにも助けられ、自分の言葉で気持ちを表現できるようになり、大きく変わりました。ウクライナでも日本でもサイバーセキュリティを学んできたので、その分野でキャリアを追求することにしました。自分が幸せになり、周りの人も幸せにし、社会やチームに貢献し、家族にも誇りに思ってもらいたいです。祖国の再建にも力を尽くしたいです。

◆ 卒業生のメッセージ全文は
こちらをご覧ください



～受け入れ日本語学校の声～

東京国際外語学院 総務 青島様のコメント

難民・避難民の方が日本語を学ぶことによって、彼らの未来が少しでも開けるのであれば、微力ではあるが、日本語学校としてお手伝いができるのではと考え受け入れを始めた。アジア出身の学生が大勢を占めるなか、ウクライナの学生たちは、母国の風習を語るにも、グループワークで意見を述べるにも、新鮮な視点や異文化交流の発端になっている。発表に時おりにじむ平和への願いも他の学生たちに染み込み、小さな議論が生まれることも。ただ普段は、避難民であっても他の学生と何ら変わることなく席を並べ、ともに学び、ともに笑い、わが国の生活様式や日本人の考え方に驚いている。何でもないような日常の学びこそ多文化共生だと考えている。



メディア掲載実績

- 2024
- 04.02 毎日新聞『4月新たな一歩』(福岡で就職した学生への取材記事掲載)
 - 06.19 NHK ニュース『キャッチ!世界のトップニュース 増加する難民・避難民 日本に求められることは』(当団体の事業成果について放映)
 - 06.20 NHK ニュース7『世界難民の日 ウクライナからの避難』(当団体の事業成果について放映)
 - 08.01 国際人流 『難民の議論を交わらせたい/交わっていく難民等支援』(当団体より寄稿)
 - 08.01 「てんこもり」令和6年8月号『開かれた包摂社会に向けて』(理事より寄稿)
 - 12.09 朝日新聞『アサド政権崩壊「お祝いまだ早い」 日本に住むシリア人、喜びと不安』(受け入れ留学生のコメント掲載)
 - 12.12 南日本放送 / TBS NEWS DIG『アサド政権崩壊に「信じられなかったけど、みんな幸せ」 鹿児島県内のシリア出身女性の思い』(当団体事業卒業生のコメント掲載)
 - 12.26 朝日新聞『日本めざす難民学生、外国人が必要な日本 つなぐNPO 支える米国人』(当団体事業について掲載)
- 2025
- 02.25 TBS ラジオ『ロシアによるウクライナ侵襲から3年。長期化する避難民の現状と今後の課題』(当団体事業卒業生が出演)
 - 03.31 朝日新聞『日本で就活するウクライナ人学生 エントリー、面接の敬語「難しい」』(当団体事業について掲載)

支援ネットワーク：大学・専門学校・日本語学校、支援企業一覧

2024年には東京大学、東北大学も日本教育パスウェイズ・ネットワーク(JEPN)に加わり、受け入れ大学が広がっています。また専門学校への受け入れも増えています。

受け入れ大学及び日本語学校一覧 (2025年4月時点)

JEPN 加盟大学

合同募集実施大学(18大学・50音順)
関西大学(大阪府)
関西外国語大学(大阪府)
関西国際大学(兵庫県)
慶應義塾大学(東京都)
国際基督教大学(東京都)
上智大学(東京都)
創価大学(東京都)
大東文化大学(埼玉県)
テンブル大学ジャパンキャンパス(東京都)
東京女子大学(東京都)
常磐大学(茨城県)
フェリス学院大学(神奈川県)
文京学院大学(東京都)
武蔵野大学(東京都)
明治大学(東京都)
立教大学(東京都)
龍谷大学(京都府)
早稲田大学(東京都)

関西学院大学
天理大学
東京大学
東北大学
法政大学

専門学校(2校)

総合学院テクノスカレッジ(東京都)
日本写真芸術専門学校(東京都)

日本語学校(22校)

仙台国際日本語学校(宮城県)
日本国際工科専門学校(千葉県)
船橋日本語学院(千葉県)
ABK学館日本語学校(東京都)
カイ日本語スクール(東京都)
新宿日本語学校(東京都)
東京工学院日本語学校(東京都)
東京国際外国語学院(東京都)
東京明生日本語学院(東京都)
京都民際日本語学校(京都府)
倉敷外国語学院(岡山県)
国際言語文化センター附属日本語学校(ICLC)(沖縄県)

「ウクライナ学生支援会」参加の

以下の各日本語学校

メロス言語学院(東京都)
日本語センター(京都府)
清風情報工科学院(大阪府)
コミュニケーション学院(兵庫県)
神戸住吉国際日本語学校(兵庫県)
専門学校湖東カレッジ(熊本県)
国際ことは学院日本語学校(静岡県)
ループインターナショナル日本語学校(大阪府)
AMA日本語カレッジ(兵庫県)
創智国際学院(兵庫県)

受け入れプログラムパートナー団体

国際基督教大学財団
シリアOV会
特定非営利活動法人日本ウクライナ友好協会 KRAIANY
特定非営利活動法人 TELL
特定非営利活動法人 WELgee

支援団体・企業一覧

補助金等

公益財団法人 アジア福祉教育財団
真如苑
日本国際基督教大学財団
ラッシュジャパン合同会社チャリティバンク

寄付金

アシャー・スト法律事務所
SAP ジャパン株式会社
かすみがせき婦人会
一般社団法人志有会
社会福祉法人日本国際社会事業団
日本聖公会東京教区聖愛教会
パーソルクロステクノロジー株式会社
株式会社フレックスインターナショナル
ブルームバーグ エルピー

物品・サービス協力

SAP ジャパン株式会社
国際基督教大学
特定非営利活動法人国際留学生協会(IFSA)
在日カナダ大使館
シャビーロ財団
大東文化大学
公益財団法人東京 YMCA
ブルームバーグ エルピー
文京学院大学
ラッシュジャパン合同会社チャリティバンク
立教大学
一般社団法人留学生支援ネットワーク
株式会社 PR TIMES

※五十音順・敬称略

個人寄付

24名から487,000円のご寄付をいただきました

～受け入れ大学の声～ 早稲田大学・国際部国際課 磯部様のコメント

「貢献の早稲田」を標榜する本学では、困難な状況を乗り越えて学びに向かう難民・避難民の学生を受け入れることは本学の社会的責任であり、学問の多様性を育む重要な一歩と考えています。実際に受け入れた学生は非常に意欲的で、学業への真摯な姿勢や柔軟なコミュニケーション力に感銘を受けました。彼らの存在は、周囲の学生にも刺激を与え、国際的な視野や共感力を育むきっかけとなっています。彼らのこれからの活躍が大学全体ひいては世界に良い影響を与えていくものと信じています。



決算報告 ～上期（2024 年 4 月 1 日から 2024 年 9 月 30 日まで）、下期（2024 年 10 月 1 日から 2025 年 3 月 31 日まで）～

(1) 経常収益 (単位: 円)	上期	下期
① 特定資産運用益	14,962,405	13,436,931
② 受取補助金等	16,317,935	12,145,155
③ 受取委託費	-	-
④ 受取寄付金	10,078,862	10,917,628
⑤ 雑収入	22,403	171,329
経常収益計	41,381,605	36,671,043

(2) 経常費用 (単位: 円)	上期	下期
① 事業費	37,204,562	34,906,536
② 管理経費	2,156,216	1,873,685
経常費用計	39,360,778	36,780,221

正味財産期末残高 - 上期	1,110,574,048
正味財産期末残高 - 下期	1,120,470,505

※当財団は 2024 年 10 月 1 日に公益財団へ移行したため、上期と下期に分けて報告しています。

団体概要

団体名 公益財団法人 パスウェイズ・ジャパン (Pathways Japan PJ)
設立 2021 年 7 月 7 日 一般財団法人設立 2024 年 10 月 1 日 公益財団法人として認定
所在地 〒112-0004 東京都文京区後楽 2-16-5 福永ビル 4 階
代表理事 折居 徳正
TEL 03 (6555) 3193

役員一覧

評議員 藤田 直介 弁護士
機能 聡子 ARUN 合同会社代表
奥野 由紀子 東京都立大学教授
理事 折居 徳正 当財団代表理事
井内 摂男 団体役員
石井 宏明 特定非営利活動法人 Mobility for Humanity 共同代表
鈴木 真代 Social Connection for Human Rights 共同創設者
津田 和泉 公益社団法人難民起業サポートファンド理事
長谷部 美佳 明治学院大学准教授
監事 根本 剛史 弁護士
藤澤 祐貴 公認会計士
特別顧問 渡邊 利三
顧問 石川 えり 団体役員

 www.pathways-j.org

 @pathwaysjapanPJ

 @pathways_japan

 @pathwaysjapan

 公益財団法人
パスウェイズ・ジャパン
PATHWAYS JAPAN



毎月の継続的なご寄付で難民の学生の未来への歩みを支える

伴走サポーター募集中



紛争や人権抑圧などで母国を逃れる難民・避難民の若者が世界で増える中、日本で学び、働くことを希望する者は毎年 1,000 名以上にのぼります。より多くの若者を受け入れ、日本で未来を切り拓く道筋を広げていくには、継続的なご支援が必要です。ぜひご寄付を通じて、一人ひとりの道のに寄り添い、未来への歩みをともに進める「伴走サポーター」となってください。

✦ ご支援はこちらから

